

論語で有名な学問の神様『孔子』を祀る『多久聖廟』は、創建から300年。その建立は、この地を『丹邱の里』や『文教の里』と呼ぶにふさわしい郷土に作り上げる気運に満ち、多久は学問の先進地として全国に名を広げたのでした。

多久市では、創建300年にあたり、この偉大な財産を市民全体で再認識したり、伝統や歴史を誇りとして全国に発信する様々な記念事業に取り組んでおり、秋本番に向けても着々と準備を進めています。

今月の特集では、6月の話題を紹介し、6月中旬から始まった特別企画展に合わせ、多久聖廟をめぐる沿革年表や300年前の創建者の熱き思いを紹介します。多久聖廟創建の思いを私たちの心に、生活に生かして、全国に発信し、そして未来につなごう。

1708年に多久茂文が建立

江戸時代、多久氏によって治められていた多久領は、鍋島氏の諸政策により、財政的に恵まれず、領民の心は荒んでいたと言われています。

そんな時、多久家4代を継いだのが、佐賀本藩2代藩主鍋島光茂（1632～1700）の三男だった『多久茂文』でした。



多久茂文公
(1699～1711年)

茂文は、多久領を治めるには教育が必要と考え、学校と孔子像を安置する『聖廟』の建設を願望したのです。儒学が政治の学問的な支えとなり、幕府や各藩でも儒者が重んじられ、孔子を祀る聖堂が建てられる時代でもあり、学問を好み、儒学を尊崇した茂文は、各藩に先駆けたものでした。1699年、まず学問所（後の東原座舎）を建設。そして、1708年に椎原山の麓に『聖廟』を完成させ、孔子像を納めました。

麓に『聖廟』を完成させ、孔子像を納めました。

多久聖廟は孔子という神、孝悌忠信の人を守る神を祀る

茂文が聖廟を建てるにあたって、聖廟の必要性と教学の精神を記した『文廟記』の中には、領主として政治と教育に対する方針が示され、その基本となる『敬』を養うために聖廟を建設すると述べ、「是は何の神であり、何を守りする神ですか」との尋ねに対し、『この神は孔子という神であり、孝悌忠信の人（親に孝行、兄弟仲良く、まめやかでまことのある人）をお守りする神である』と記されています。この年、茂文自らが祭官となり、初めて秋菜を行って以来、伝承行事として今日まで受け継がれ、1980年には佐賀県重要無形民俗文化財に指定されています。

多久聖廟は日本三大孔子廟の一つで、最も壮麗

孔子像を安置した孔子廟は、恭安殿と呼び、日本三大孔子廟の一つで、現存する聖

廟としては、足利学校（栃木県）、閑谷学校（岡山県）に次ぐ古い建物です。数ある聖廟の中でも最も壮麗と言われ、建築様式は、禅宗様仏堂形式と呼ばれる我が国の代表的な様式ですが、多数の龍などの彫刻や文様で中国的な雰囲気を出しています。

「丹邱の里」「文教の里」「孔子の里」と受け継がれる

領主による領民教育の結果、座舎、聖廟を心の拠点として代々継承発展させ、幕末から明治にかけて、社会のために活躍した多くの学者や実業家などの人材を輩出しました。中国で仙人の住む理想郷を意味する「丹邱の里」という美称で呼ばれ、遠く江戸まで多久の名が及んだのでした。その後も「文教の里」として継承され、今進んでいる「住みたい美しいまち」づくりは、先人が遺した「丹邱の里」と「文教の里」を温故知新の中で目覚めさせ、よみがえらせた多久ならではの『孔子の里』づくりなのです。その主役は市民のみなさんです。

西暦	多久聖廟300年の歩み	日本でのその他できごと
1881	旧孔子像を江北の白木村聖廟神社に祀る	廃藩置県
1871	多久郷学校を多久小学校と改称	大政奉還
1869	東原座舎、多久郷学校に引き継がれる	1867年 佐賀藩で大砲鑄造のための反射炉を建造
1845	東原座舎、火災で焼失する（翌年再建）	1850年 大塩平八郎の乱
1833	東原座舎、火災で焼失する（翌年再建）	1837年 伊能忠敬が「大日本沿海輿地全図」を完成する
1832	聖廟修理（脇壇嵌板）	1814年 杉田玄白らが「解体新書」を出版
1767	聖廟の屋根をこけら葺に改める。この頃、東原座舎を聖廟西南方に移築する	1774年 徳川吉宗が第8代將軍に就く
1711	茂文、43歳で没する	1709年 徳川綱吉没
1708	多久聖廟が落成する。恭安殿と号し、8月14日、茂文自ら献官となり秋菜が行われる	1716年 赤穂浪士吉良邸に討入
1705	聖廟建設に着手	1702年 奥の細道完成
1700	孔子像の鑄造を京都の中村惕齋に依頼する	1699年 湯島聖堂が建立
1699	学問所（後の東原座舎）が落成	1694年 「奥の細道」完成
1692	佐賀3代藩主鍋島綱茂より学問所額が茂文に贈られる	1687年 徳川綱吉が「生類憐みの令」を發布
1686	茂文、多久3代領主多久茂矩の隠居により、4代領主となる。この頃、孔子像および四配像を清国に依頼する	1684年 閑谷学校聖廟建立
1678	茂文、9歳で佐賀城内の多久屋敷に移る	1668年 足利学校孔子廟建立
1669	多久茂文、佐賀藩2代藩主鍋島光茂の三男として佐賀・向陽軒に生まれる	